

「おじいちゃん、おばあちゃんはドラえもん」

— 私たちのおじいちゃん、おばあちゃん先生 — (生活科を通して)

○共生意識の育成 ○自尊感情 ○コミュニケーション能力 小学校1・2年

1 題材設定の趣旨

高齢者は、一般的には年をとるにつれて体が衰えていくというマイナスイメージを持たれがちである。入学してから、生活科で地域の高齢者との交流を通じた体験学習を積み重ねてきた子どもたちが、高齢者の技術や知恵に学び、尊敬の念を抱きながら、優しさや思いやりを大切にする事を通して、自尊感情を高め共に生きようとする意欲を持つ。

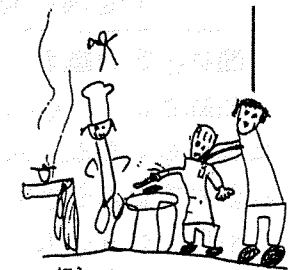
2 ねらい

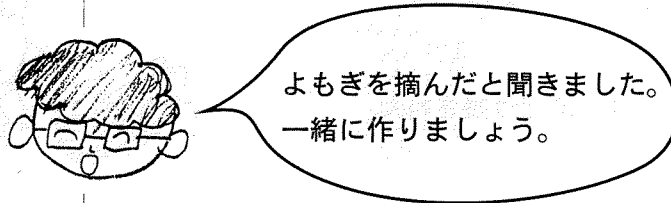
- 高齢者との交流を通して、共通な活動を持つことにより、よりよい人間関係を築いていこうとする。
- 高齢者に対する尊敬の気持ちを持つ自分や、高齢者から認められている自分に気づき、相手を大切に思い、共に生きていくことのすばらしさを感じ得る。
- 自分のおじいちゃんおばあちゃんという意識を持ち、相手のために自分から関わろうとする活動ができる。
- 交流の活動を通して、相手のよさ、友だちの良さ、自分の良さに気付くと共に自尊感情が高まり、自己を素直に表現することができる。

3 学習の流れ (生活科の年間計画の活動内容の一部)

大単元 「てんぐさん 大好き わたしたちの町とぐら」

月	学習内容	活動内容 <人権教育の視点>	評価 (期待する反応)
4月	春と友だち	○畑の先生 (庁務員) に教わって植えよう。 「畑の先生よろしくお願いします「軟らかい土のお布団を掛けよう」 気づき意欲	◇先生の芋へのやさしさを感じる。
5月	春さがし	○キティパークで春さがし。「シルバーのおじいさんおばあさん忙しそうだね」「花を摘んでいっしょに遊んだよ」 「よもぎを教えてもらったよ」 共に生きる	◇おじいちゃんおばあちゃんは、いっぱい知っていたことに気づく。
	端午の節句	○キティパークで摘んできたよもぎを使って、家でよもぎだんごを作ろう。 「家でおばあちゃんと作ったよ」 ○地域のよさを食べ物から知ろう。 意欲	◇地域の食べ物を作ってうれしい。 ◇知らないので作れなくて寂しい。
6月	生き物と なかよし	○植木屋のおじいさんおばあさんからもらったカブトムシの幼虫を一人ひとり自分のカブトムシとして育てよう。 感謝 意欲	◇二人の優しさを大切に育てたい。
7月	七夕祭り	○地域のおばあちゃんに行事食「ほうとう」の作り方を教えてもらい、みんなで作って食べよう。地域の良さを知ろう。	◇行事食のよさをおばあちゃんから教わり技のすばらしさと優しさに尊敬の念を抱く。

		<p>(春、作り方を知らない家庭が多くよもぎだんごを作ってもらえない子が多かったので今回は地域のおばあちゃんたちをお願いした)</p>  <p>わー、すごい。こーんなに膨らんだ。おばあちゃん すごーい。おばあちゃんはドラえもんみたいだ。</p> <p>・ねかせた後の、大きく膨らんだ生地を見て叫んだ。 尊敬 感謝 コミュニケーション</p>	<p>◇みんなで楽しくできる。</p>  <p>ほうとうをつくったよ。</p>
8月	夏いきいき 実践事例 I	<p>○羽のでなかったカブトムシを大切に育てる。Nくん「かぶとむしさん、よかったね」 自尊感情</p>	◇大切に育て自分と同じ気持ちになれる。
9月	わらざうり作り 実践事例 II	<p>○わらざうりを作りたいと思った子どもたち。名人のとみ子おばあちゃんに教えてもらいながら、自分のわらじを作ろう。 意欲 尊敬 感謝</p>	<p>◇とみ子おばあちゃんのすばらしさを感じる。 ◇みんなで協力してできる。</p>
10月	私たちの秋	<p>○キティパークで秋さがし。「木の実、お月見の花、シルバーのおじいちゃんに教えてもらったよ」 共に生きる</p>	◇おじいちゃんのすばらしさを感じる。
11月	むぎさん	<p>○畑の先生に教わって麦を育てよう。「小さい種だね」「やさしく、温かく、土のお布団そっとね」 生命の尊重 感謝</p> <p>○畑の先生と一緒に焼き芋をやろう。「大きくなったね」「ほっかほっか」</p>	◇命の大切さを感じる。
12月 1月	お正月	<p>○お正月についておじいさんやおばあさんから話を聞こう。 尊敬 自尊感情</p> <p>○昔のお正月の遊びを聞いて、一緒に遊んでみよう。「おばあちゃん、お手玉上手だよ」「おじいちゃんに竹馬作ってもらった」 尊敬、コミュニケーション</p>	◇昔の遊びって難しいけれど楽しい。おばあちゃんたちはじょうずだな。
2月 3月	感謝の会をしよう	<p>○お世話になった方々を呼んで感謝の会を開こう コミュニケーション</p> <p>○喜んでもらうために、学習してきたことを発表しよう。「練習しよう」「文集をプレゼントしよう」「ヒヤシンスのお花を育てよう」 ○感謝の会 表現力 自尊感情</p>	<p>◇相手のことを思いながら、自分の思いを素直に発表したり活動したりできる。 ◇心があたたまり期待を持つ。</p>

月		<p>「歌やお手紙喜んでもらってよかったね」 「おじいちゃん、山でカブトムシのふわふわベット作ってくれているんだって」 「おばあちゃんオカリナうまかったね」 ○「来年も呼んでね。一緒にやろうね」</p>		
二年生 5月	<p>よもぎだんごを作ろう</p>  <p>よもぎを摘んだと聞きました。一緒に作りましょう。</p> <p style="text-align: center;">尊敬 感謝 コミュニケーション</p>	<p>○キテイパークでいっぱいよもぎを摘んだよ</p>	<p>◇おばあちゃんのやさしさや願いが理解できる。</p>	
7月	<p>むぎさんのへんしん</p> <p style="background-color: #cccccc; padding: 2px;">実践事例Ⅲ</p>	<p>○「むぎさんでかごをつくってみたいな」 「おばあちゃん、かごのあみ方知っていたら教えてください」</p> <p style="text-align: center;">コミュニケーション 尊敬</p>	<p>○「むぎさんでかごをつくってみたいな」 「おばあちゃん、かごのあみ方知っていたら教えてください」</p>	<p>◇おばあちゃんはやさしく教えてくれる。麦のあみ方のすばらしさや技術のすごさに感動する。</p>
10月	<p>お月見会をしよう</p>	<p>○「おばあちゃんに教わったおだんごをつくらう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流している保育園の子をよぼう 「保育園のお友だちとおだんごをつくらってお月見会を楽しもう」 <p style="text-align: center;">共に生きる 自尊感情</p>	<p>○「おばあちゃんに教わったおだんごをつくらう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流している保育園の子をよぼう 「保育園のお友だちとおだんごをつくらってお月見会を楽しもう」 	<p>◇おばあちゃんみたいにやさしく教えたり面倒を見たりできる。</p> <p>◇一緒に楽しくおだんごを作ったり食べたり喜んでもらえた。</p>

4 実践事例

(1) 事例1 「ぼく、育てる」 (羽が出なかったカブトムシさん)

①設定の理由

地域の植木屋さんのおじいちゃんおばあちゃんからカブトムシの幼虫をたくさんいただいた。一人2匹ずつ育てると同時にクラスでも10匹ほど飼育する。その中に羽のないカブトムシが生まれた。頂いたおじいさんおばあさんの優しさを感じながら、愛情を持って進んで育てていく子どもになってほしいと願った。

②N男の様子

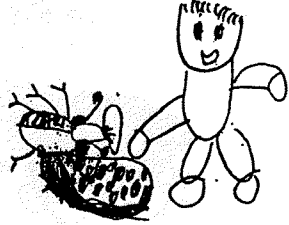
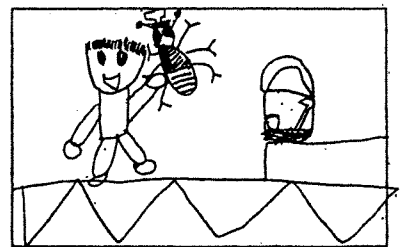
集団行動が苦手で、授業に、集中できないことがあった。友だちの間でも、保育園の頃から「元気のいい子」に見られていた。一学期、気持ちが落ち着かない時、靴を隠してまわりを困らせることもあった。

③ねらい

○植木屋さんのおじいさんおばあさんからもらったカブトムシには、二人の優しさやカブトムシに対する思いがあることに気づく。

○生きてほしいと願いながら、カブトムシの気持ちを大切に育てることができる。

④N男の変容

カブトムシと子どもたち	カブトムシとN男																																																																																																																																																																																																																
<p>7月上旬次々と教室でカブトムシが誕生。一匹羽のないカブトムシが生まれた。バランスが保たれないため、えさのゼリーも食べられない。</p>																																																																																																																																																																																																																	
<p>○「かわいそう」と口々に言う。 ○夏休み、元気のいいカブトムシは希望した子ども達で持ち帰った。</p>																																																																																																																																																																																																																	
<p>羽のないカブトムシは一匹だけ残された</p>																																																																																																																																																																																																																	
<p>○夏休み初日、親と学校に懇談に来た時、 「あ、羽がないんですか。かわいそうだね」 (母) 「ぼく、育てる」 (N男) 「そうだね。Nちゃん家で一緒に育てよう」 (母)</p>																																																																																																																																																																																																																	
<p>夏休み後、家で育てた学級のカブトムシを持ち寄る</p>																																																																																																																																																																																																																	
<p>○「どうして立てたの？」 (N男の周りに集まり、質問する)</p>	<p>「先生、カブトムシたてた！」 (N男) 「本当だ立っている」 (T) 「前は寝ていて起きられなかったの。おばあちゃん喜んでくれるよね」</p>																																																																																																																																																																																																																
<p>N男に絵日記をもとに話してもらおう</p>																																																																																																																																																																																																																	
<p>『羽のないカブトムシさん、生まれた時から羽がないカブトムシさん。ぼくはかわいそうだと思ったよ。ぼくががんばってそだてるよ。えさも毎日あげるからね。』</p>																																																																																																																																																																																																																	
<p>○しーんとして聞く ○今まで持っていたN男に対するイメージが変わっていき、N男の良さに気づいていく。N男の良さについて、みんなに聞きながら理解させる。</p>	<table border="1" style="font-size: small; text-align: center;"> <tr> <td>た</td><td>か</td><td>ほ</td><td>か</td><td>べ</td><td>た</td><td>げ</td><td>を</td><td>あ</td><td>つ</td><td>つ</td><td>て</td><td>お</td><td>さ</td><td>は</td><td>た</td><td>ぶ</td><td>う</td><td>ま</td><td>ち</td> </tr> <tr> <td>ね</td><td>ぶ</td><td>く</td><td>た</td><td>よ</td><td>た</td><td>く</td><td>を</td><td>こ</td><td>た</td><td>せ</td><td>よ</td><td>し</td><td>ん</td><td>ね</td><td>よ</td><td>と</td><td>一</td><td>ま</td><td>れ</td><td>か</td> </tr> <tr> <td>。</td><td>と</td><td>う</td><td>た</td><td>よ</td><td>。</td><td>ち</td><td>れ</td><td>ろ</td><td>よ</td><td>す</td><td>う</td><td>さ</td><td>の</td><td>。</td><td>む</td><td>ひ</td><td>れ</td><td>た</td><td>ぶ</td> </tr> <tr> <td>。</td><td>む</td><td>れ</td><td>よ</td><td>。</td><td>お</td><td>。</td><td>も</td><td>か</td><td>ん</td><td>。</td><td>み</td><td>と</td><td>ん</td><td>だ</td><td>い</td><td>し</td><td>ぎ</td><td>た</td><td>よ</td><td>と</td> </tr> <tr> <td></td><td>し</td><td>し</td><td>。</td><td>す</td><td>い</td><td>せ</td><td>い</td><td>だ</td><td>に</td><td>お</td><td>。</td><td>て</td><td>い</td><td>。</td><td>さ</td><td>は</td><td>よ</td><td>。</td><td>お</td><td>。</td> </tr> <tr> <td></td><td>さ</td><td>か</td><td>ほ</td><td>ご</td><td>し</td><td>り</td><td>て</td><td>か</td><td>ま</td><td>も</td><td>も</td><td>ほ</td><td>な</td><td>か</td><td>ん</td><td>ね</td><td>。</td><td>お</td><td>し</td><td>。</td> </tr> <tr> <td></td><td>ん</td><td>か</td><td>ん</td><td>く</td><td>そ</td><td>い</td><td>い</td><td>り</td><td>ま</td><td>。</td><td>。</td><td>く</td><td>い</td><td>ぶ</td><td>か</td><td>の</td><td>。</td><td>よ</td><td>さ</td><td>。</td> </tr> <tr> <td></td><td>た</td><td>。</td><td>う</td><td>う</td><td>。</td><td>も</td><td>。</td><td>す</td><td>だ</td><td>て</td><td>て</td><td>わ</td><td>わ</td><td>と</td><td>う</td><td>な</td><td>。</td><td>し</td><td>ん</td><td>。</td> </tr> <tr> <td></td><td>か</td><td>。</td><td>う</td><td>れ</td><td>に</td><td>あ</td><td>て</td><td>い</td><td>か</td><td>り</td><td>。</td><td>そ</td><td>ぶ</td><td>お</td><td>ま</td><td>い</td><td>。</td><td>。</td><td>。</td><td>。</td> </tr> <tr> <td></td><td>。</td><td>。</td><td>に</td><td>し</td><td>た</td><td>け</td><td>あ</td><td>か</td><td>り</td><td>え</td><td>な</td><td>だ</td><td>と</td><td>し</td><td>れ</td><td>か</td><td>。</td><td>。</td><td>。</td><td>。</td> </tr> </table>	た	か	ほ	か	べ	た	げ	を	あ	つ	つ	て	お	さ	は	た	ぶ	う	ま	ち	ね	ぶ	く	た	よ	た	く	を	こ	た	せ	よ	し	ん	ね	よ	と	一	ま	れ	か	。	と	う	た	よ	。	ち	れ	ろ	よ	す	う	さ	の	。	む	ひ	れ	た	ぶ	。	む	れ	よ	。	お	。	も	か	ん	。	み	と	ん	だ	い	し	ぎ	た	よ	と		し	し	。	す	い	せ	い	だ	に	お	。	て	い	。	さ	は	よ	。	お	。		さ	か	ほ	ご	し	り	て	か	ま	も	も	ほ	な	か	ん	ね	。	お	し	。		ん	か	ん	く	そ	い	い	り	ま	。	。	く	い	ぶ	か	の	。	よ	さ	。		た	。	う	う	。	も	。	す	だ	て	て	わ	わ	と	う	な	。	し	ん	。		か	。	う	れ	に	あ	て	い	か	り	。	そ	ぶ	お	ま	い	。	。	。	。		。	。	に	し	た	け	あ	か	り	え	な	だ	と	し	れ	か	。	。	。	。
た	か	ほ	か	べ	た	げ	を	あ	つ	つ	て	お	さ	は	た	ぶ	う	ま	ち																																																																																																																																																																																														
ね	ぶ	く	た	よ	た	く	を	こ	た	せ	よ	し	ん	ね	よ	と	一	ま	れ	か																																																																																																																																																																																													
。	と	う	た	よ	。	ち	れ	ろ	よ	す	う	さ	の	。	む	ひ	れ	た	ぶ																																																																																																																																																																																														
。	む	れ	よ	。	お	。	も	か	ん	。	み	と	ん	だ	い	し	ぎ	た	よ	と																																																																																																																																																																																													
	し	し	。	す	い	せ	い	だ	に	お	。	て	い	。	さ	は	よ	。	お	。																																																																																																																																																																																													
	さ	か	ほ	ご	し	り	て	か	ま	も	も	ほ	な	か	ん	ね	。	お	し	。																																																																																																																																																																																													
	ん	か	ん	く	そ	い	い	り	ま	。	。	く	い	ぶ	か	の	。	よ	さ	。																																																																																																																																																																																													
	た	。	う	う	。	も	。	す	だ	て	て	わ	わ	と	う	な	。	し	ん	。																																																																																																																																																																																													
	か	。	う	れ	に	あ	て	い	か	り	。	そ	ぶ	お	ま	い	。	。	。	。																																																																																																																																																																																													
	。	。	に	し	た	け	あ	か	り	え	な	だ	と	し	れ	か	。	。	。	。																																																																																																																																																																																													
<p>○「N男くんてやさしいなあ」 「N男くんてすごいなあ」</p>	<p>○「カブトムシをくれた植木屋さんのおじちゃんおばあちゃんに見せたいなあ」</p>																																																																																																																																																																																																																

(2) 事例2 「とみ子先生、くつをぬいだときそろえているよ」(草履づくり)

① 設定理由

児童会主催のバザーで、解放子ども会に行っている児童が編んだわら草履が売られていた。この草履を教室に飾っておくと、子どもたちが、お兄さんが編んだということを知り、「じょうずだね。」「ほしいなあ。」「編んでみたいなあ。」という声があがってきた。草履づくりを通して校区内に住む高齢者の技術を見たり体験したりすること